

平成30年度愛知県がんセンター公開講座(第5回)のご案内  
「女性特有のがん(子宮がん、卵巣がん、乳がん)の最新治療」  
= 平成31年2月23日(土)開催 =

〈 講師からのメッセージ 〉

「若い女性にも知ってもらいたい子宮頸がんの診断と治療、そして予防」

子宮頸がんは、20～30代女性で罹患率も死亡率も増加！日本の子宮頸がん検診の受診率や若年者へのがん教育の普及は、欧米と比べて低いことが指摘されています。頸がんのほとんどは、性行為によるヒトパピローマウイルス感染が原因で、女性の約8割は感染するとも言われています。子宮頸がんの標準治療は、子宮全摘であり、妊娠は不可能となります。検診で前がん病変（高度異形成や上皮内がん）発見されれば、完治する可能性も高く、子宮を残すことが可能です。本講座では、正しい知識を知っていただき、がん検診で早期発見、早期治療、自分の命と子宮を守っていただきたいと思います。

中央病院 婦人科部 部長 水野 美香

「卵巣がんの最新の治療と遺伝性卵巣がん」

卵巣がんの治療は、長いあいだ抗癌剤中心でしたが、近年新しい分子標的薬が開発されました。また、治すことが難しいとされる再発卵巣癌に対する治療法の開発や、新しい免疫療法である免疫チェックポイント阻害薬の開発も進んできています。

現在卵巣がんに行う標準的な治療に加え、今後期待されている治療について解説していきます。さらに、卵巣がんのなかには、がん発症に「遺伝要因（親から受け継いだ/生まれつきもったもの）」が関与していることがわかってきています。

その特徴と検査や予防法について、説明していきたいと思います。

中央病院 婦人科部 医長 坂田 純

「乳がんについて正しく知ろう～予防・手術療法～」

乳がんは女性のがんの中で最も多く、11人に1人と増加し続けています。乳がんは30代から増加しはじめ、40代後半～50代前半にピークをむかえます。乳がんは女性にとって身近な病気であり、家庭や社会の中で大事な役割を担う年齢に多くみられます。乳がんについて知らない事は過剰な不安や、間違った選択をしてしまう事にも繋がります。1人でも多くの方に、乳がんについて正しく知ってもらい、正しい予防法、正しい治療選択、より良い生活が送れるよう、乳がんの予防・手術治療について分かりやすく講義したいと思います。

中央病院 乳腺科部 医長 吉村 章代

「乳がん薬物療法の最前線－遺伝性疾患に対する治療を含めて－」

乳がんの治療の柱は、手術、薬物療法、放射線治療です。乳がんの治療は、最初のがん細胞の性格の特徴を知ることが重要です。がん細胞の性格と病気の進み具合をみて、治療方針を立てます。近年の薬物療法の進歩により、個々に合わせた最適な治療を提示することが可能となり、治療成績も向上しています。また最近では、乳がんの発症と関連している遺伝子の変化を調べ、それに対応した治療薬が有効であることがわかり、日本の保険診療でも認められました。本講座では最新の乳癌薬物療法に焦点をあて、これらを紹介致します。

中央病院 乳腺科部 医長 澤木 正孝